

# 今月のひと

イラストレーター・絵本作家  
小池 アミイゴさん・63歳 粕川町出身・東京都

## 絵本で居場所をつくっていききたい

2月14日に「だれでもえがけるワークショップ」(本紙19ページ)を実施した小池さん。大学進学で上京するまで、粕川町で過ごした。

「粕川町はのんびりしていて、美しいまち」と話す小池さん。しかし故郷でも大学でも、どこか居心地の悪さを感じていたという。その頃出合ったのが美術学校「セツ・モードセミナー」。イラストレーターを志すきっかけとなった場所だ。

「そこで人の弱さを愛で尊ぶことの大切さや美意識を持って生きていくという考えに出会い、自分の思考が変わりました」と話す。

現在は全国各地で、さまざまな活動を実施。

「子ども向けのワークショップでは上手かどうかを判断するのではなく、子どもが親から離れて自分から前に進み、面白さを感じていけるようなきっかけ作りをするのが私の役目」と小池さん。

被災地支援も大切にしている活動の一つ。

「小さく生まれた息子が一歳になり成長していく



姿を見て、命の大切さを感じていた頃発生した東日本大震災。息子に自分の言葉で本当の被災地の姿を伝えたいと思い、ボランティアをしながらさまざまな人と出会い、絵を描いてきました」と小池さん。継続することを大切にし、寄付をするなど支援活動を続けている。

「全ての活動はつながっています。私の使命は絵で人を幸せにすること」。小池さんは思いを絵に込めてたくさんの人の心に届けていく。

# CITY フォーカス

本市のイベントや  
事業などを紹介



## 寒さの中に楽しさ発見

赤城山の大沼などでAKAGI WHITE WEEKを開催しました。氷上ワカザギ釣り体験には1月31日・2月5日の2日間で18組32人が参加。約40cmの氷にアイスドリルで穴を開ける競争も実施されました。2月7日の寒さがまん大会には23人が参加し、かき氷早食い競争などで盛り上がりました。



【Vol.14】長崎県佐世保市高島の  
ゆったりした時間  
☎ 広報ブランド戦略課  
☎ 027-898-6971

2月2日から6日にかけて、スローシティ分野の地域おこし協力隊である村上史隊員が、チッタスロー国際連盟への加盟に向けて研究を進めている長崎県佐世保市の高島を訪問。佐世保市が持つ地域固有の価値について、生活者の視点から整理し言語化する取り組みを支援しました。

高島は人口約150人の島で、九十九島にある4つの有人島のうち、2番目に大きな島です。名産品は「高島ちくわ」で、島の暮らしや文化を象徴する存在となっています。

村上隊員は「佐世保市街とは違うゆったりとした時間が流れる高島。白身魚のエソを贅沢に使った出来立ての「高島ちくわ」は、焼き目の濃淡によって一口ごとに香ばしさの印象が変わります。牡蠣の養殖現場の見学や漁師とのバーベキューなどで、高島ならではの暮らしと自然を身近に感じられました」と話しました。



村上史隊員提供

スローシティ前橋・赤城は今後も、チッタスロー国際連盟に加盟する宮城県気仙沼市をはじめ、スローシティの理念に共感し、加盟を検討している自治体との連携を継続していきます。

スローシティ認知度について、1分ほどで終わる簡単なアンケート調査を実施します。二次元コードのアンケートフォームから回答をお願いします。



アンケート



## 笑顔あふれる絵の時間

2月14日に道の駅まえばし赤城内SHOP CAFE Quで「小池アミイゴのだれでもえがけるワークショップ」を開催しました。約45人の参加者が床に広げた大きな紙に思い思いのハートや絵を描いたり、寝転んでかたどったりし、絵の具で着色。紙いっぱい色とりどりの絵があふれました。

## 挑戦の精神を次世代へ

1月25日にかたしな高原スキー場(片品村)で「猪谷千春杯スキー競技大会」を開催しました。猪谷千春さんは日本人初の冬季五輪メダリストで本市の名誉顧問。小学生から60歳以上までの幅広い世代がスキーの技を競い、猪谷さんの挑戦と貢献の精神を次世代へ継承する大会となりました。

